学校教育だより

まなびやまと

No.5
平成15年（2003年）2月
大和市教育委員会

生徒たちの芸術の祭典開かれる

ー中学校芸術祭で日頃の成果を発表ー

神奈川県公立中学校文化連盟大和支部芸術祭が11月7日から9日までの3日間、生涯学習センターを会場に開かれました。この芸術祭は、市内中学校生徒の日頃の芸術文化活動の成果を他校の生徒や保護者、市民などに発表するもので、毎年この時期に開催されています。

期間中生涯学習センターのホールでは、英語大会や、各校代表クラスによる合唱、部活動、演劇などの発表が行われ、また、北館1階では生徒の作品およそ千200点を展示した美術展が開かれました。

9日に行われた部活動の発表には、合唱部が2校、吹奏楽部が5校参加し、合唱では「青空のように」「遠い日の歌」など7曲、吹奏楽では「コラールとダンス」「ディズニーメドレー」など13曲を披露しました。観客は、生徒たちの美しいハーモニーや、吹奏楽部の迫力ある演奏に大きな拍手をおくっていました。

今年の芸術祭には、3日間で生徒や保護者、市民、延べおよそ千200人が訪れ、中学生の日頃の努力の成果を楽しみました。

迫力ある吹奏楽部の演奏

障害をもつ人やお年寄りにやさしいまちに

―小学生が聴覚障害者・ボランティアの方と交流会を実施―《深見小》

10月30日の総合的な学習の時間に、深見小学校の4年生が、耳の不自由な方やボランティアの方7名を学校に招き、交流会を行いました。4年生はこれまで、「共に生きる」というテーマで、バリアフリーについて学習してきましたが、交流会はこの学習の一つとして行われました。

交流会では、子どもたちが手話を交えて歓迎の歌を歌った後、自分たちがまちで見つけたバリアフリーの設備などを発表したり、手話でクイズを出したり、招待した方たちに手話を教えていただいたりしました。

質問コーナーでは、耳の不自由な方が、子どもたちの質問にていねいに答えてくださいました。「赤ちゃんが泣いているかどうか分からないので、夜寝ているときもずっと赤ちゃんを手で触っているようにした。今は赤ちゃんが泣いたとき知らせるベビーシグナルが開発されたので大変助かる」など、一つ一つの話に子どもたちはじっと聞き入っていました。

障害をもつ人やお年寄りが安心してくらしていけるためのバリアフリーの学習は、10月上旬から12月下旬にかけて行われ、子どもたちは調べたり体験したり考えたりしたことを一人ひとり新聞や作文にまとめて発表しました。

手話を交えて歓迎の歌を披露する4年生

もっともっと本を好きになってね

ー保護者のボランティアが全学級で読み聞かせー《大和小》

大和小学校では、全学級で保護者のボランティアによる読み聞かせが行われています。読み聞かせは、3年前に一部の保護者の方により始められ、昨年度から全学級で行われるようになりました。今年度は全校の保護者にボランティアを呼びかけたところ、60名の方が協力を申し出てくださいました。

読み聞かせは、毎月第1・第3火曜日、朝8時30分から15分間の朝自習時間に、その日の担当の方が各教室を訪れて行っています。読み聞かせの時間は、担任も子どもたちと一緒になって聞いています。使用する本は、ボランティアの方が自分たちで学校の図書室や市立図書館などから探してきています。

読み聞かせは、我が子だけではなく他の子どもたちとも触れ合い、理解を深めたい、地域ぐるみで子どもたちを見守っていきたい、さらに本好きな子どもを増やしたいという保護者の願いと学校の願いが一致して続けられており、子どもたちにも大変好評です。

本に集中し聞き入る子どもたち

「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。年2回発刊しています。気軽にお読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

※これまで発刊した「まなび やまと」は、市のホームページ「大和の教育・教育委員会からのお知らせ」でご覧になれます。

小学校1年生の学習や生活指導を支援

－市で1学級の児童数が多い1年生の指導に非常勤講師を派遣－

《林間小》

本市では今年度より、小学校1年生の1学級の児童数が多い3校に、各校1名非常勤講師を派遣する事業を行っています。学校生活の基礎・基本を学ばせ、学習への興味・関心・意欲を高めていく大切な時期に、きめ細かな指導を行うために派遣しているもので、対象となっているのは、林間小学校、大和東小学校、下福田小学校の1年生です。

その中の一つ、林間小学校は、4学級すべてが1学級あたり40人か39人と児童数が多く、派遣された非常勤講師が、担任と協力しながら指導にあたっています。

実際に派遣事業を受けている1年生の担任は、◎個別指導の充実を図ることができる。特に読み、書き、計算などの基礎的内容の定着に効果が期待できる。◎一人ひとりの進度に合わせた学習指導ができる。◎生活指導上で個別指導を要する子や突発的なことへの対応が適切にでき、児童の安全確保やきめ細かな対応が可能になる、などプラス面が大変多い、また、子どもたちも「二人のうちどちらかの先生にすぐ聞くことができるのでうれしい」と話していると、その効果について高く評価しています。

ティームティーチングを行っている1年生の教室のようす

個に応じたきめ細かな指導を

――3学年で少人数指導を実施――

《下福田小》

下福田小学校では、学習集団の規模を小さくして、きめ細かに教える少人数指導を今年度より行っています。これは昨年度から始まった国の少人数指導教員の特別配置により実施しているもので、1名加配された教員を活用し、3年算数、4年算数、5年国語で少人数指導を行っています。

少人数指導を行うときは、1クラスを2つに分けて行います。その際それぞれのクラスの学力が等質になるように分け指導をしています。

指導に当たっている4年生の先生は、「1クラス20人程度になり、人数が少ないので一人ひとりに目が行き届く。ノートを見たりするのにも、時間がかけられる。子どもたちも、少人数指導の時間を楽しみにするようになった」と話しています。

少人数指導では、子どもの理解の程度で分ける習熟度別によるクラス分けなども考えられますが、同校では今年度初めての取り組みということから等質のクラス分けでその成果をみていくことにしています。

なお、市内の他の小・中学校でもティームティーチングや少人数指導を取り入れており今後も推進していきます。

少人数指導中の教室のようす

みごとな作品に先輩も感心

－校区の小学生の作品を中学校に展示－ 《光丘中》

小学生の作品を見る生徒たち

光丘中学校区の小学校4校（大和東小・深見小・草柳小・文ヶ岡小）の作品を集めた「小学校児童作品展」が10月29日から11月1日まで、光丘中学校で開かれました。この作品展は、小学校と中学校の連携を図る教育活動の一つとして、平成6年度から行われています。

会場の第2理科室には、絵や工作の他に、習字、社会科の時間にまとめた学習新聞、生活科で書いた「みつけたよカード」など、工夫を凝らした小学生の作品が教室いっぱいに展示され、生徒や保護者が熱心に鑑賞していました。会場に来ていた生徒は「小学生の作品とは思えないほど上手です。発想が豊かで驚きました」と語っていました。

一方、光丘中学校の生徒の作品は、1月20日から2月14日まで校区の大和東小・深見小・草柳小・文ヶ岡小の各校に巡回展示されています。

光丘中学校と小学校4校の連携を深める活動として、この他に中学生が出身小学校の運動会の前日準備等を支援する母校ボランティアや、教師間の小・中交流授業公開なども実施されていますが、とりわけ小学校児童作品展は、小・中連携の柱の一つとして定着しています。

全学年でコンピュータを使った授業を公開

―コンピュータ利用教育（情報教育）の研究発表会開催―

《大野原小》

大野原小学校で11月22日、授業に積極的にコンピュータを取り入れた成果を報告する「コンピュータ利用教育（情報教育）研究発表会」が開かれました。同校は昨年度から市教育委員会の委託を受け、授業でコンピュータをどのように活用したら子どもの学びを広げることができるかを研究してきました。

公開授業では、1・2年生は生活科で描画ソフトを使いながら紙芝居の発表を行いました。また、3年生から5年生は、社会科などでの課題解決のために、インターネットを使って調べたり、電子メールで情報交換したりしたことをパソコンを使って発表しました。

6年生は、市内を流れる引地川について、きれいな川にするにはどうしたらよいか、市内の福田小学校の6年生と市役所環境部の職員と3箇所を結んだテレビ会議システムを活用し、会議を行いました。

テレビ会議を行う6年生

公開授業終了後、体育館でパネルディスカッションが開かれ、教師代表と6年生児童代表がパネリストとして参加し、「コンピュータはどう学びを広げたか」をテーマに話し合いました。

6年生代表は「インターネット等を利用できるようになり、情報収集手段が広がった。一方、自分の目や耳、足を使って調べることの大切さにも気がついた」など、利点や課題についてコンピュータを操作し、スクリーンに資料を提示しながら発表しました。

この日は市内外から教育関係者など約180名が来校し、熱心に参観していました。

「つくれ！子ども世界」

―「総合的な学習の時間」の研究成果公開―

《上和田小》

工夫しながら劇づくりをする1年生

去る11月21日に、上和田小学校において3年間にわたる研究の成果が発表されました。教科の基礎基本にもとづく、「総合的な学習の時間」の研究と実践の公開です。市内外から教育関係者ら約80名が参加しました。

同校は、人とのかかわりの中にこそ子どもの成長はあるとして、子どもの主体性、学習集団の高め合いを大切にし、「つくれ！子ども世界」というテーマで研究を進めてきました。

この日は、1・2年生が生活科、3～6年生が総合的な学習の時間の授業を公開しました。1年生や2年生は、みんなで考えを出し合いながら秋の劇をつくったり遊びランドの準備をしたりしました。3年生はみんなと心を一つに合わせシュプレヒコール劇をつくり、4年生はおいしい豆腐をつくる工夫について話し合いました。また、5年生は「くらしを考える○○の旅」、6年生は「研究論文を書こう」というテーマで、これまでの活動の経過を報告し合いました。わかば級は、お店「ティー&ケーキわかば」を開き働く人となって、かかわりを広げることを目標に楽しく活動していました。

授業の後は、7つの分科会に分かれ研究協議が行われました。その後もたれた全体会では、研究経過の説明と、本市の元校長峰勉先生による講演がありました。

146人の生徒に大きな実り

―4年目を迎えた職場体験学習―

《渋谷中》

12月5・6日の2日間、渋谷中学校の2年生が職場体験学習「TRY・WORK」を行いました。今回で4年目となる「TRY・WORK」は、生徒たちが地域の商店や工場などで働く体験をとおして、進路について考えたり、地域との交流を深めたりすることを目的として実施しています。地域の方々の協力を得て、今年は146人の生徒が、40の事業所で学校では得られない貴重な体験を積むことができました。

職場体験学習をとおして生徒たちは、「大人はすごい！色々なことを知っていて、色々なことをやっている」と、事業所の方の働く姿を目の当たりにしたり、自分でやってみたりして、仕事を完璧にやり遂げることの難しさに驚いていました。また、どの生徒も自分の力不足を自覚しながらも「少しでも役に立ちたい」という思いや、「なんとかやれたのは、○○さんのおかげです」と素直な感謝の気持ちを持ったようでした。

一方、事業所の方々は、生徒一人ひとりの性格に応じた対処をしてくださり、生徒を「子ども」と見るのではなく、その存在と働きを認め、ほめる心づかいを示してくださいました。

「TRY・WORK」は、今年も大きな実を生徒たちに結ばせてくれました。体験の場を提供してくださった事業所の方々や温かく見守ってくださった地域の方々は、生徒たちのこれからの歩みに期待を寄せています。

老人ホームで職場体験学習をする生徒たち

小学校に安全を守る非常ボタン設置

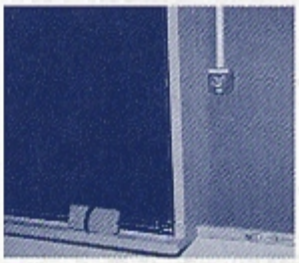
市教育委員会では学校の安全を守るため、市内の小学校の校舎及びプレハブ教室の1・2階（一部3階）に非常ボタンを設置しました。設置したのは、普通教室、特別教室等の各教室で、非常ボタンは、異常事態が発生した場合に教職員や児童等の誰もが押せる位置にあります。

また、職員室には、異常事態発生場所が即座に判断できるように、監視盤が設置してあり、異常発生と同時にベル等の音響が出るシステムになっています。さらに廊下には、誰もが聞き取れる非常ベルが設置されています。

非常ボタンは、既存の機械警備と連動されており、ボタンが押されると同時に、警備管理センターに非常通報され、緊急対応を行います。

警備管理センターでは、非常信号受信と同時に通報された学校に逆チェックの電話連絡をするとともに、緊急対処要員に現場へ急行するよう指示します。逆チェックの電話連絡は、教職員等へ異常現場の確認を依頼するもので、異常事態発生状況により即座に警察へ110番通報します。

非常ボタン設置工事は8・9月で完了し、10月よりシステムが稼動しています。



黒板のそばに設置された非常ボタン

「大和市家庭・地域教育活性化会議」が活動開始

昭和50年代後半に青少年の健全育成を目的とした「児童生徒指導連絡協議会」が各中学校区に設立されました。以来20余年、市内の小・中学校やPTAが中心となって運営され、遅法看板撤去や愛のパトロール等の様々な活動が行われてきました。

近年、学校内外での子どもたちの暴力行為や不登校児童生徒の増加、更には保護者による児童虐待など、家庭教育や地域教育として取り組むべき新たな課題が増えてきました。

そこで、こうした問題への対応や学校週5日制の完全実施などを踏まえ、これまでの各協議会の活動を充分活かしながら、市内9地区に「地区家庭・地域教育活性化会議」を新たに設立しました。

この会議は、各地域の実態や特色を活かし、地域の人々が主体的に運営します。そして、学校、地域、家庭の連帯感を高め、各種団体との連携も図り、地域ぐるみで青少年の健全育成を推進し、様々な社会的問題や課題にかかわっていける街づくりを目指します。

本年度7月までに各地区に発足し、「明るい地域づくりのための標語募集」「秋の交通安全キャンペーン」「地区のふれあい広場への参加」「親子ふれあい教室」等の活動がはじまっています。

「上福田地区ふれあい広場」にて

すべての小・中学校でコンピュータ利用推進補助員活躍中

市教育委員会では、国の緊急地域雇用創出特別交付金を受け、コンピュータ利用推進補助員をすべての小・中学校に1名ずつと教育研究所に2名配置しています。学校に配置した補助員は、主にコンピュータを使った授業の補助や教職員の技術相談、データベースの作成補助等、また、教育研究所に配置した補助員は、学校配置補助員への技術支援やコンピュータ研修会の補助等を行っています。

補助員の配置期間は、前期が5月20日から10月31日まで、後期が11月1日から3月20日までとなっており、国の雇用創出における規定に基づき、前期と後期で補助員が入れ替わっています。

当事業は、平成11年11月から開始し、その間、国の予算の関係で補助員の「全校配置」「2校に1名配置」「教育研究所にのみ1名配置し、学校の要請で支援に出かける」など、配置を工夫しながら、これまで4年間継続して行ってきました。

現在休み時間にコンピュータ室を子どもたちに開放している学校も多く、補助員は授業時間だけでなく、休み時間も大活躍しています。

授業をサポートする補助員（中央）

部活動も連携・多様化へ

―大和市中学校部活動支援推進協議会報告―

中学校部活動への支援をねらいとして、大和市中学校部活動支援推進協議会が発足したことは、本紙「まなび やまと」第3号（平成14年3月）でお知らせしましたが、この度、3回の協議を終えましたので、その概要をお知らせします。

協議としては、生徒にとって大きな楽しみであり、人格形成に大きく関わっているという部活動の意義を踏まえ、市内の部活動の状況及び各学校の実状を把握する中で課題を探り、具体的な支援方法について話し合いました。

まず、行政からの支援としては、既存の部活動指導者派遣事業の充実と今年度より発足した部活動指導者ボランティア事業の拡充を図ること。学校間連携の部活動のあり方としては、中学校の合同部活動や小・中及び中・高の連携を図ること。さらに、市中体連の「中学生の部活動についての意識調査」等の結果によると、自分の趣味を生かせる部活動を望んでいる生徒も多いことから、ともすると強さのみを追求しがちであった今までの部活動についての考え方や発想を転換し、生徒・保護者の価値観の多様化に対応できるような柔軟な考え方も必要であるとの意見も出されました。

多くの課題を抱え、長年懸案になっている部活動の問題の解決に取り組むためには、今まで以上に活動を行う生徒の側に立った考え方と、学校・家庭・地域・行政・関係諸団体等の緊密な連携・協力体制が必要であり、部活動支援へのあり方を今後とも探っていく必要があります。

★お問い合わせ　大和市教育委員会指導室・教育研究所　電話（260－5210・5213）★
☆ホームページ「大和の教育」http://www.city.yamato.kanagawa.jp/kyoiku/index.htm